

私たちは、地域と地球の
環境に配慮した事業者です



® 環境省

エコアクション21

認証番号 0013563



TOTAL
PACKAGE
PLAN
CO.

エコアクション21 環境経営レポート

2024年6月14日

(2023年4月1日～2024年3月31日)

第34期

株式会社ティーピーパック 事業活動の概要

1. 組織名および代表者氏名

株式会社ティーピーパック
代表取締役 池川 和人

2. 所在地

本社
北海道札幌市西区八軒九条西6丁目2-4
帯広サテライト
北海道帯広市西2条南6丁目1-4 ポトスビル8階
東京オフィス
東京都中央区東日本橋1-9-2 パインコート日本橋8F

3. 事業内容

商品企画、パッケージデザイン、包装資材・包装関連機器の販売

4. 事業の規模

	2023年度(第34期)	単位
売上高	312,402	万円
従業員数	33	人
床面積	549.32	m ²

5. 対象範囲

本社、帯広サテライト

6. 環境管理責任者および担当者

環境管理責任者
副社長取締役 齊藤 和也

エコアクション21推進チーム
松原 陸人、魚住 直広

環境配慮資材実績

1. 株式会社ホッカン様 極薄とろけるとろろ

北海道産真昆布100%の極薄のとろろ昆布のパッケージに、石油由来の原料を極力減らした紙パッケージを提案しご採用いただきました。紙の風合いを出しナチュラル感を表現しております。また、インキも一部は植物由来のバイオマスインキを使用しています。特殊技術により通常のとろろよりも薄く、よりとろけるとろろ昆布。量販店にて好評発売中です。



2. 株式会社丸市岡田商店様 北海道米粉カヌレ

岡田商店様が販売する北海道産米粉を使用したカヌレに環境配慮素材をご採用いただきました。リサイクルナイロンやバイオマスインキを使用することにより他商品に比べ環境負荷の少ないパッケージを実現しております。



3. エゾマツクラフト

日本では北海道にしか生育しないエゾマツの端材粉末を紙に漉き込んだ原紙。

紙そのものもリサイクル古紙を100%使用した再生紙を使用することで、北海道らしさと環境配慮をアピールします。



環境経営方針

環境経営の基本理念

株式会社ティービーパックは、北海道から商品の付加価値を最大限に高めるパッケージのソリューションカンパニーを目指す。

その過程である事業活動を通じて、継続的改善により環境保全に貢献できるよう省資源化はもとより環境配慮型の商品の販売を進め、社会・地域が持続的に発展しうる環境づくりに貢献いたします。

(重点項目)

1. 省エネルギーを推進し、電気・灯油の使用量の削減に努めます。
2. 廃棄物の低減や再資源化への取り組みを行います。
3. 環境配慮型の商品販売目標を設定し、商品企画・パッケージングを通して、二酸化炭素排出量を削減することに寄与します。
4. 社員全員が、環境経営方針を理解し環境意識を持つことができるよう啓発活動を行い継続的な改善を進めていきます。
5. 環境関連法規制や当社基本方針を遵守し、環境経営を継続的に推進いたします。

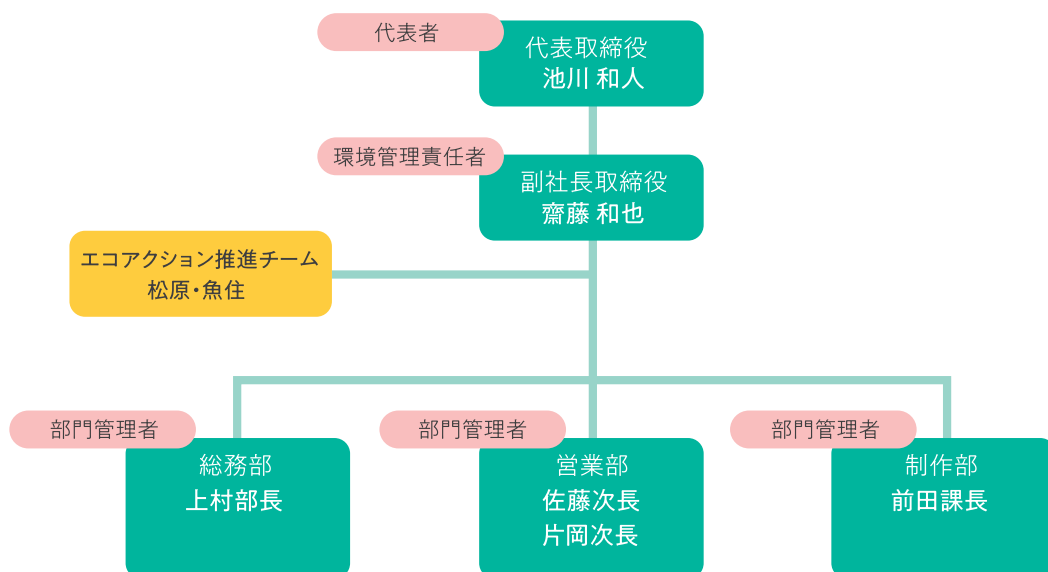
制定日2021年9月1日

改訂2022年3月5日

株式会社ティービーパック

代表取締役 池川 和人

エコアクション21推進 実施体制



担当者	役割、責任及び権限
代表者(社長)	«社長» 会社を代表し、会社業務の全ての執行を統括する 1. 環境マネジメントシステムの実施及び管理に不可欠な資源の提供 (資源には、人的資源及び専門的な技能、技術並びに資金を含む) 2. 環境経営方針の作成 3. EA21推進事務局メンバーの任命 4. 全体の評価と見直しの実施
環境管理責任者 及びEA21推進 チーム担当	1. 環境マネジメントシステムの要求事項の確立、実施 2. 環境マネジメントシステムに係るスケジュールの作成及び管理 3. 環境活動レポートの作成 4. 環境への負荷の自己チェックシート、取組の自己チェックリストの作成 5. 各部門の環境マネジメントシステム環境活動に係る文書・記録の管理
各部門管理者	1. 各部門の環境マネジメントシステムの運用実施 2. 各部門の教育・訓練の実施 3. 各部門の環境上緊急事態対応 4. 代表者(社長) への本社実績報告を含む見直しのための報告

3カ年環境経営目標(34~36期)

	環境経営目標			
	基準値(2022年)と単位	2023年度(34期)	2024年度(35期)	2025年度(36期)
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量 kg-CO2 91,776kg-CO2	90,860kg-CO2	89,942kg-CO2	89,024kg-CO2
	電力使用量 49,627kWh (本社・帯広)	1%削減 49,131kWh (本社・帯広)	2%削減 48,634kWh (本社・帯広)	3%削減 48,138kWh (本社・帯広)
	営業車ガソリン 使用量 24,642ℓ	1%削減 24,396ℓ	2%削減 24,149ℓ	3%削減 23,903ℓ
	暖房燃料使用量 (灯油の削減) 2,957(ℓ)	5%削減 2,927ℓ	8%削減 2,898ℓ	10%削減 2,868ℓ
廃棄物排出量削減	一般廃棄物排出量 18,816kg	2%削減 18,440kg	3%削減 18,252kg	5%削減 17,875kg
	産業廃棄物排出量 10kg	排出時には適正管理	排出時には適正管理	排出時には適正管理
水使用量削減	水使用量206m ³ t	前年度維持	前年度維持	前年度維持
環境配慮型資材の採用	19件	採用目標件数:30件	採用目標件数:40件	採用目標件数:50件
グリーン購入	OA用紙や事務用品の グリーン購入の実施	100%実施	100%実施	100%実施

※北海道電力の二酸化炭素排出係数 0.549kg-CO2/kWh(2022年度)にて算出

※化学物質は使用していない。

環境経営計画

二酸化炭素排出量削減

1. 残業時間削減による消灯
2. パソコン待機時間の削減
3. 不要な電力使用撲滅
4. エコドライブの実践
5. 車両の適正な整備(燃費性能関連)
6. 低燃費車の導入
7. ロードヒーティング適正管理
8. 暖房・給湯温度適正管理

廃棄物排出量削減

1. 廃棄物の適正な分類の徹底管理
2. 空になった弁当容器等の適正管理
3. アルミ・スチール缶の適正管理
4. 廃棄からリサイクルへの分別(OA用紙)
5. 排出時の適正な保管管理
6. 適正な業者に委託する

水使用量削減

1. 節水意識の徹底

環境配慮型資材の販売

1. プラスチック系資材から、再生可能資源の資材への切替提案
2. バイオマス資材の積極的な採用を目指す
3. 環境配慮素材の情報収集と顧客への提案
4. 環境配慮のシステム提案

グリーン購入

1. カタログからの購入時に環境配慮商品を選択する

実績と取組結果(2023年4月～2024年3月)

	単位	2023年4月～ 2024年3月目標	2023年4月～ 2024年3月実績	達成状況	取組結果
二酸化炭素排出量	kg-CO2	90,860	91,320	×	取り組んだが未達成
電気使用量(本社・帯広)	kWh	49,131	51,956	×	取り組んだが未達成
ガソリン使用料	ℓ	24,396	24,872	×	取り組んだが未達成
暖房燃料使用量 (灯油)	ℓ	2,927	2,330	○	取り組んで達成
一般廃棄物排出量	kg	18,440	14,580	○	取り組んで達成
水使用量の削減	m ³	206	213	×	取り組んだが未達成
環境配慮型資材の 採用	件	30件	28	×	取り組んだが未達成
グリーン購入 OA用紙・事務		100%実施	100%実施	○	取り組んで達成

※北海道電力の二酸化炭素排出係数 0.549kg-CO2/kWh(2022年度)
参考:0.601kg-CO2/kWh(2019年度)

※化学物質は使用していない。

実績の分析と評価、 今後の環境経営計画

二酸化炭素排出量

当社の企業活動における二酸化炭素排出力は、大きく分けて電力30%、ガソリン60%、その他10%という構造になっている。コロナ禍からの回復が顕著になり電力消費量は目標値を超過している。灯油の使用量は減少したものの全体に占めるウェイトが少ないため全体としての二酸化炭素排出量は目標を達成することができなかった。34~36期の三か年での目標設定はそのままに35期もその目標に向けて取り組んでいく。

電力使用量

電力に関しては、照明のLED化や残業時間削減などの取組を継続しているが、全体の消費量は目標を5%強上回ってしまった。コロナ禍からの回復により来客増やパソコン使用時間増などが影響しているものと考えられる。社員は節電意識を持ち不必要な電力消費のないよう取り組んでいるが、より一層の取り組みをしていきたい。

ガソリン使用量

当社の社有車はすべて低燃費のハイブリッドカーを採用しており、社員にはアイドリングストップやエコドライブの啓発を行っている。営業活動が当社企業活動の根幹であるため、顧客訪問は最も重要な活動となっている。目標をやや超過してしまったがやむを得ないものと考えている。

灯油

灯油購入については目標を大きく上回った。適切な温度設定を維持効率よく働ける環境づくりを意識しているが、天候による影響が大きかったものと考えている。今後もこれまでも同様に無駄をなくし効果的な使用に抑えていく。

一般廃棄物

一般廃棄物の減量については目標を達成できた。週一回の社内ランチ(お弁当)など実施しているためここまで削減できるとは思っていなかったが容量を減らす取組などが功を奏したと思われる。引き続き廃棄物の削減意識を高めるよう取り組む。

水使用量

前年維持を目標にしているがやや上回った。使用用途は、台所、トイレ、駐車場への散水が主であり無駄な使用はなかったと考えている。水使用に関しては特に問題があるとは考えていない。

環境配慮型資材の販売

34期の目標30件として取り組んだが、結果は28件とあと一步のところまで未達であった。顧客や営業社員の環境への意識は高まっているものの、昨今の物価高の中での商品開発プロセスの中での優先順位が低迷しているよう感じる。とはいえ、この先も企業活動を行う上で持続可能な仕組みづくりは最重要課題であるため、今まで以上の取組を進める。

グリーン購入

OA用紙、事務用品はグリーン購入を進めており課題はないものと考えている。引き続きグリーン購入を続けていく。

環境関連法規など遵守確認と評価

環境関連法規に関して違反はありません。

また、過去3年以上近隣からの苦情や関係当局からの指摘、苦情や指導、訴訟もありません。

法律等の名称	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	適合
資源の有効的な利用の促進に関する法律(グリーン購入)	適合
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	発生なし
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律(小型家電リサイクル法)	発生なし
札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例、札幌市告示(事業系一般廃棄物の処理委託)	適合
札幌市火災予防条例(灯油タンクの取扱)	適合
水質汚濁防止法(灯油タンクからの漏洩)	発生なし
道路運送車両の保安基準(車検)	適合
フロン排出抑制法(エアコン簡易点検)	適合

代表者による全体の評価と見直し

第34期はエコアクションへの取組をはじめて3期目となる。当初のコロナ禍でのスタートから当社を取り巻く環境は大きな変化が起こっています。

経済活動が回復する中での目標と実態の乖離など難しい目標設定ではありましたが、前期、今期の消費エネルギーが平常時の実績に近いものと認識してる。その中で二酸化炭素排出量が目標未達成であったことは残念であるが、引き続き排出量削減努力を続けていくことが重要です。

当社の商社業としての根幹である包装資材の企画販売の中でより環境負荷の少ないパッケージを提案していくことは持続可能性を考える中で非常に重要であるし、同業他社との競争で差別化できる付加価値あるものに成長させたい。

円安進行など外的な要因で包装資材を取り巻く市場環境にも大きな逆風になると考えられるが、積極的な社会貢献活動として、消費エネルギーの抑制や環境配慮型資材のより一層の提案を強化していきたい。

34期の二酸化炭素排出量目標は未達成ではあったが、当初の34期～36期の三か年目標設定のまま35期も取り組んでいく。